

---

# 予約 1

さすらいのかえる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

予約1

### 【コード】

N9080B

### 【作者名】

さすらいのかえる

### 【あらすじ】

片思いの男の子の話し。気持ちは伝えないと決めているのに心が揺れる……

何があったのか、そんな事はどうでも良かった。

でも、そう思いつつ、何があつてここきたのかを何となくわかつている自分が居る。

そして、その事で自分が嬉しいと思つている事が凄く嫌だった。

自分の偽善者っぷりに泣けてくる。

彼女の前に立つ資格があるだろうか……。

俺は必死に泣くのを我慢している彼女の頭を撫でながら言った。

「泣いて良いんだよ。無理すんなよ」

「泣いたら負けじゃない？」

彼女の腕を掴んで、強引に引き寄せて抱きしめた。呟くように言う。

「俺がお前に負けそう」

「ん？なに」

「何でもない」

危ない。もう少しで自分の気持ちを言いそうになった。俺の腕の中で彼女が泣き出す。

これは拷問か？

俺は出来るだけ何も考えないようにして、優しく抱きしめながら彼女の頭を撫でる。

どれだけ時間が経っただろうか、彼女が顔を上げて言う。目が赤いでも泣き止んだようだった。

「ぎゅーとして」

返事の代わりに強く抱きしめる。気が狂いそうだ。頭の隅で警告信号が鳴り続けている。

や、やばい。

「こうしてたら恋人同士に見えるよね」

「かもね」

「・・・」

「・・・」

「今日乗り悪くない？」

「かもね」

「・・・」

俺の素っ気ない返事が気に入らなかったのか、彼女が俺の中から離れた。悲しいけどほっとする。

彼女は俺を指差して言った。

「そこ、泣きやすいから予約していい？」

俺は何も言わずに微笑んだ。

終わり。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9080b/>

---

予約1

2011年1月2日14時39分発行